

# 平成の大合併

## 報告書

(2011年12月21日～2012年1月16日調査)

I	調査の設計	1
II	調査のポイント	3
III	調査の概要	4



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610  
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

# I 調査の設計

## ◆調査の目的

平成 11 (1999) 年から 22 (2010) 年 3 月まで、国は人口減少・少子高齢化などの社会情勢の変化や地方分権にふさわしい財政基盤の確立を目的として、市町村合併を積極的に推進した。全国的には市町村数 3232 から 1730 に、長野県も 120 (17 市、36 町、67 村) から 77 (19 市、23 町、35 村) に減少した。

総務省は、「合併の本来の効果が現れるまでには 10 年程度の期間が必要」としているが、主な大合併 (旧合併特例法下) から 5 年以上を経過したのを機に、その評価と検証を行い住民の生活向上へつなげたい。

(注) 約 10 年かかった合併だが、県内は 18 (06) 年 3 月末までに 81 市町村となり一段落、その後 21 (09) 年に阿智村、22 (10) 年に長野市と松本市で編入合併があり 77 市町村となっている。なお山口村は 17 (05) 年、岐阜県中津川市に越県編入された。

合併には編入合併と新設合併の 2 パターンがあり、今回の調査は編入合併 (長野市、松本市、大田市、塩尻市、飯田市、阿智村) の旧町村、新設合併 (中野市、千曲市、上田市、佐久市、東御市、安曇野市、伊那市、飯綱町、長和町、佐久穂町、木曾町、筑北村) の旧市町村住民を対象に実施した。したがって旧市街地 (中野、上田、佐久、伊那) と合併しなかった住民は対象外である。更埴は市名が変わったので対象とした。

文中は現在の市で表記し、必要に応じて ( ) 内に調査旧町村名を入れた。サンプルの内訳にあるように、調査地点はすべて合併前の旧市町村であり、本結果はその住民の意識である。

回収サンプルが少なかった中野市 (豊田村)、塩尻市 (檜川村) は個別の分析からは除外した。

ちなみに長野県の 77 市町村数は北海道の 179 に次ぎ全国 2 位、村の数 35 は全国 1 位である。人口 1 万人未満の団体数 40 も北海道の 112 に次ぎ 2 位である (平成 22 年 3 月、総務省の資料)。それだけ自立を選択している村民が多いことを裏付ける。こうした自立を選択した村と合併した住民の意識、生活の比較は今後の課題である。

## ◆調査の設計

▽調査対象	長野県内の合併18市町村に住む20歳以上の男女800人
▽抽出方法	合併した旧市町村で二段無作為抽出法 対象者は各市町村の選挙人名簿から抽出
▽調査時期	2011年12月21日～2012年1月16日
▽調査方法	郵送（一部ファクス・インターネット回収）
▽調査地点	12市4町2村（計18市町村）

## ◆回収結果

▽有効回収数	445人（回収率55.6%＝男性206人 女性239人）
--------	------------------------------

<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。  
見出し、文中は原則として小数点第1位を四捨五入して表記した。

## II 調査のポイント

### ◆合併の評価、地域間格差が目立つ

「平成の大合併」は2006年3月末まで（平成17年度）の、集中的な合併から6年が経過しようとしている。長野県は06年に81市町村、合併一区切りの10年3月末には77市町村に再編された。

今回の調査は編入合併の5市1村、新設合併の7市4町1村の旧市町村住民の意識を、合併当事者の側から探った。

合併の評価は旧市町村時代と比べて、合併して「良かった」「悪かった」が拮抗し「何とも言えない・わからない」が49%に上った。しかし地域ごとに見ると飯田市（上村、南信濃村）と伊那市（高遠町、長谷村）は「悪かった」が半数近くで、「良かった」は5%にも達しない。自由回答に書いているように、高齢化と過疎化が進み将来に不安を抱える実情が結果に表れている。

具体的に聞いた行政サービスでは、住民負担の増加と役場の利用しにくさを挙げた人が4割を超えた。自由回答で「負担増と従来あったサービスがなくなった」ことを指摘している。

合併前と合併後の市町村名への愛着度は7割から4割に大きく低下している。とりわけ伊那市高遠町・長谷住民は89%から19%に70ポイントもダウンしている。

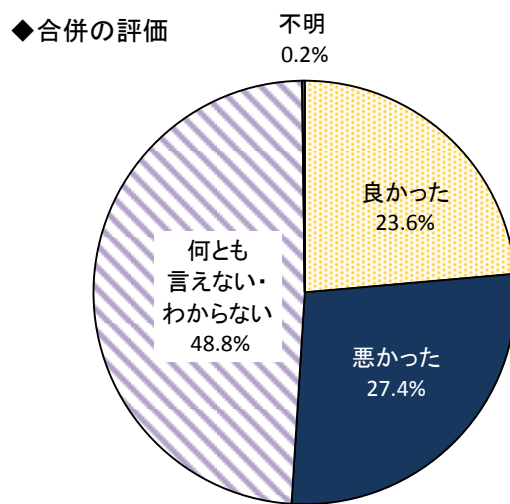
合併特例債についても聞いたが、使用に慎重姿勢が見られ、望ましい使途は山間地住民が多いことを反映し「高齢者・障がい者福祉施設」がトップに挙げられた。

今後の地域活性化への取り組みは、活動に「積極的に参加したい」は7%にとどまり、「機会があれば参加したい」が51%と消極的な姿勢が半数を占めた。ただ対象が山間地、過疎地域住民が多いため「若者が少なくなり、参加することが無理」という実態もありそうだ。

現在住んでいる自治体行政への満足度は全体で25%程度。特に編入合併の山間地、中山間同士合併の村で不満が目立つ。

長野県は自立を選択した村も多いが、高齢化、過疎化、若者流出、雇用不安といった問題が、合併で対策の糸口が見い出せたかどうか、検証が必要だ。

自由回答に寄せられた住民の切実な声に、行政は耳を傾けてほしい。



### Ⅲ 調査の概要

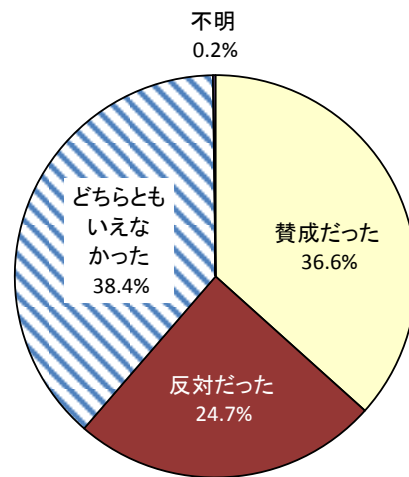
#### 合併のメリット、デメリット

(問1～3)

#### ◆ 合併に「賛成だった」37%

最初に今回の合併への賛否を聞いた。「賛成だった」37%、「反対だった」25%、「どちらともいえなかった」38%で賛成派が反対派を上回った。「賛成」が比較的高かったのは女性(29%)より男性(45%)、職業では役員・管理職・自由業(58%)、農・林・漁業(49%)で、パート・アルバイト層は「反対」がやや多かった。20～30代は「どちらともいえなかった」が過半数で、関心があまり高くなかったようだ。

市ごとに見ると「反対」が「賛成」を上回っていたのが安曇野市と伊那市。飯田市は両者32%で拮抗していた。

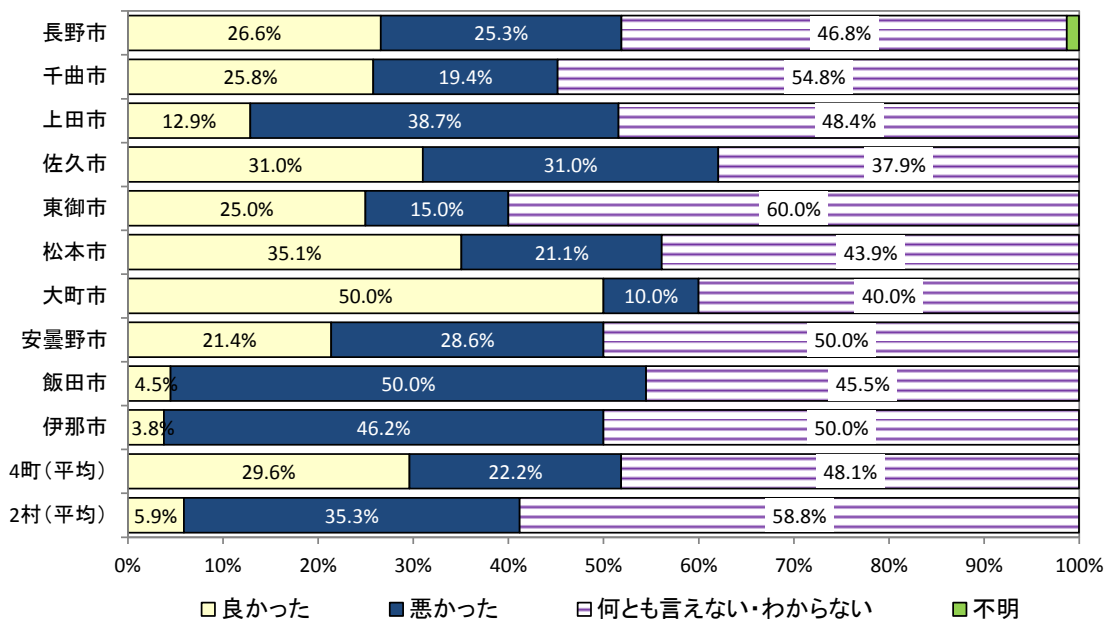


#### ◆ 合併して「良かった」「悪かった」が拮抗

現在合併してどう思うかについて「良かった」24%、「悪かった」が27%と拮抗している。「何とも言えない・わからない」がほぼ半数で、まだはっきり見極められないことがうかがえる。ただ50代、60代の3人に1人が「悪かった」としており、ほかの年代に比べて高い。

市ごとでは飯田市の半数、伊那市でも半数近くが「悪かった」と答えている。上田市(真田町、丸子町、武石村)、安曇野市も「悪かった」が多い。一方「良かった」が「悪かった」を明確に上回ったのは大町市(美麻村、八坂村)、松本市、千曲市、東御市。

#### ◆ 市町村別では



## ◆ 「住民負担」「役場の利用」悪化が4割超

具体的な行政サービス8項目について、合併後の受け止めを聞いた。サービス低下と強く感じているのは「住民負担の軽減」と「役場（支所）の利用のしやすさ」で、この2項目は全体で4割を超えた。とりわけ住民負担（ごみ収集料金、介護保険料、上下水道料金、住民税など）に不満が強いのは上田市（65%）、伊那市（62%）、飯田市（55%）で、合併後に負担が増えたと答えた人が過半数に上る。

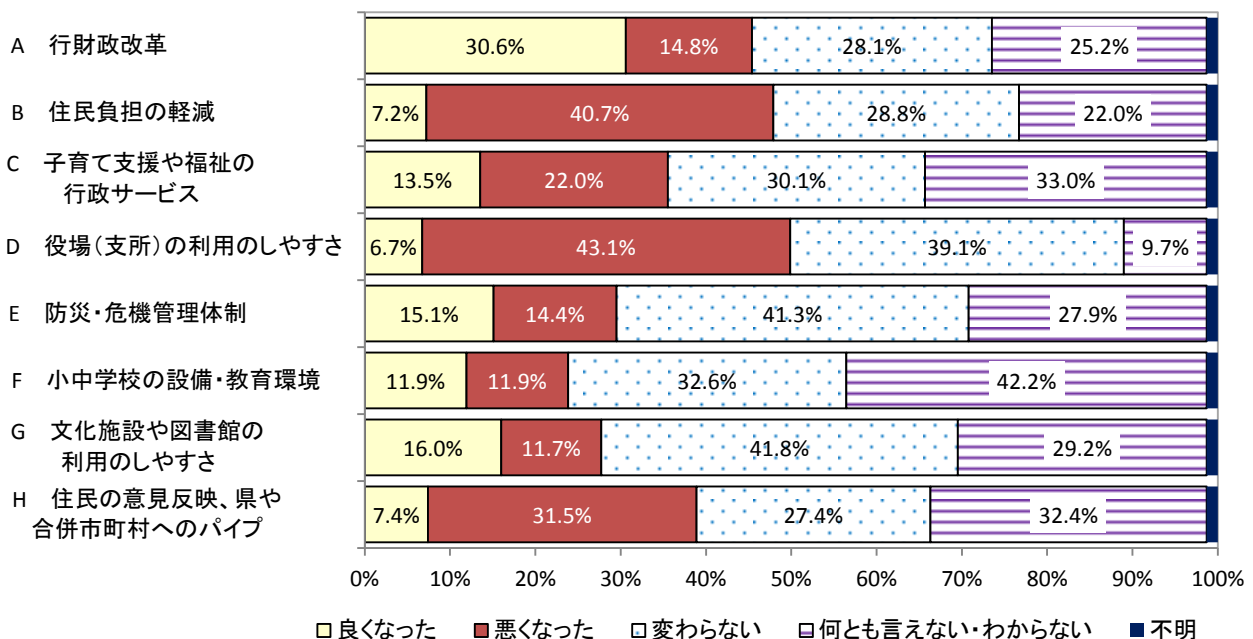
「役場の利用のしやすさ」も飯田市、伊那市では6割以上が「悪くなった」と答え、市役所まで遠い実態を反映しているように見える。

さらに「住民の意見反映、県や合併市町村へのパイプ」を「悪くなった」としている人が3人に1人で、議員選出や職員配置などに課題がありそうだ。

「良くなった」が優位なのは「行財政改革（議員・職員削減など）」で、3割余が挙げている。全般的にはグラフのように「変わらない」が3～4割程度を占める項目が多い。

ただ合併による悪化の印象が強い伊那市、飯田市についてはサンプルが少ないとはいえ、旧町村住民へ何らかの対応が求められそうだ。

（注）総務省が平成22年にまとめた報告でも、合併の問題点として①周辺部の旧市町村の活力喪失②住民の声が届きにくくなっている③住民サービスの低下④旧市町村地域の伝統・文化、歴史的な地名などの喪失—を指摘している。



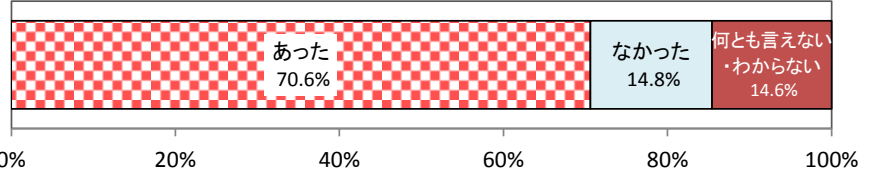
## 市町村名への愛着度

(問4～6)

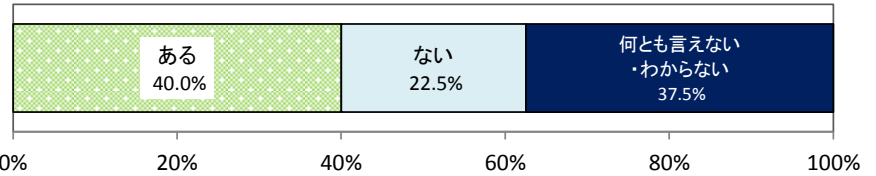
### ◆ 合併前から 30 ポイント低下

合併前と合併後の市町村名について愛着度を聞いた。合併前の名前に愛着があった人は71%、合併で変わった名前に愛着がある人は40%で 30 ポイント余の低下だ。特に落差が目立つのは伊那市の 89%→19%、上田市 74%→16%で知名度が高かった高遠町、丸子町、真田町などが上に伊那市・

◆ 合併前の市町村名に愛着は



◆ 合併で変わった市町村名に愛着は



上田市が付くことによるイメージ低下を感じているように思われる。

一方安曇野市民は愛着が「ある」69%、「ない」が1割以下で、新しい市名に好感を抱いている。千曲市、松本市も半数以上が好印象を持っている。

◆ 合併前と合併後の市町村名の愛着度比較

